

森川海流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和元年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
盛岡	盛岡広域管内流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生き物や人にやさしい川づくり 令和元年度の身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、昨年度から増加し18団体であり目標値を達成している。河川の草刈り団体数について、一定の成果を得ているが、団体数の維持に加え、高齢化の進行に伴う作業中の事故等に注意しながら活動していただく必要がある。</li> <li>●環境学習の推進 令和元年度の水生生物調査参加団体の活動回数は46回であり、目標値を達成している。今後も参加の呼びかけ等を継続し、活動数の維持に努めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生き物や人にやさしい川づくりについては、身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体数が目標値を達成した。</li> <li>●学校や環境保全団体等が取組む水生生物調査については、目標値を達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森づくりについて、森林ボランティア参加数が伸び悩んでいる。</li> <li>●森・川・里のそれぞれの活動を繋げる取組(連携強化)が必要である。</li> <li>●環境保全活動団体の中には、団体構成員の高齢化や人手不足等により、活動の継続性が懸念されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境保全活動を補助できる人材の養成を目的として認定した「りば〜るくんの郷づくりパートナー」の方々と環境保全活動団体との活動のマッチングを図る。</li> <li>●事業者、団体、住民参加型の研修会を開催し、団体、事業者間の相互の事業協力や事業の拡充等につなげるとともに、パートナー情報を広く共有し、活躍する場を提供する。また、地域の学校が行っている環境教育の活動報告をいただき、環境活動の輪を広げる。</li> <li>●活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用した普及啓発を継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域経営推進費を活用し、環境保全活動応援キャラクター「りば〜るくん」グッズ(クリアファイル、リフレクター、メモ帳、ぬいぐるみ)を活用した地域の流域保全に係る普及啓発を行った。</li> <li>●令和元年度表彰実績 ・盛岡市立太田小学校百周年記念桜愛護会(環境省地域環境保全功労者表彰) ・紫波みらい研究所(水と緑を守り育てる活動知事感謝状) ・いわて生活協同組合(岩手県環境活動表彰) ・株式会社川徳(岩手県環境活動表彰)</li> </ul>	58	97
県南広域	アテルイの里 水と緑の推進計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●植樹、間伐等の森林整備事業 協議会構成団体が実施する森林整備事業やボランティア活動等では、植樹公園、植栽地、林道等での下草刈による環境整備、22世紀ブナの森づくり事業への参加、水源地である胆沢ダム周辺地での植樹活動(原石山跡地におけるブナ幼木の植樹ほか)など、地域課題に即した活動が推進されている。 また、県(林務部)と管内企業との連携により「企業の森づくり活動」も推進されており、植樹、枝打ち、下草刈等の活動が実施されている。 このほか、東北森林管理局岩手南部森林管理署の働きかけにより、森林ボランティアの林野巡視活動(動植物保護巡視、山火事防止)、国有林フィールドでの森林教室等啓蒙活動も実施されている。</li> <li>●水生生物調査などの環境教育の推進 国(河川国道事務所)、県(振興局)、市、町による環境学習支援として、管内の小・中学生、子供会等を対象とした水生生物調査が実施されている。講師として環境アドバイザーを派遣する等、実施機関間で協力体制を構築して実施されている。 また、協議会構成団体においても水生生物調査のほか、水環境保全の大切さを伝える「小学校への出前事業」、農業・林業体験や自然活動を通じた環境学習機会を提供する「みずさわエコキッズ事業」、環境・生態系に配慮した地域のため池保全活動である「田んぼの学校」など、独自の取組が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協議会を構成する各団体の積極的な取組により、森林整備活動、河川環境保全活動、小学生に対する環境学習支援活動等を実施した。</li> <li>●普及啓蒙事業として、県南圏域「環境交流フォーラム for SDGs」を開催し(企業、一般、環境団体、行政等あわせて75名が参加)、河川ゴミ問題への先導的取組事例としてNPO法人荒川クリーンエイド・フォーラムによる講演のほか、県内の活動団体を交えた交流ディスカッションを実施することにより、環境保全及び河川清掃活動の重要性に係る情報の周知、共有を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林組合、漁業協同組合、ボランティア団体等、協議会構成団体の多くが高齢化に伴う人員不足に直面しており、環境活動を実施する上では継続的に参加できる人員の確保、世代交代が課題となっている。</li> <li>●環境保全活動に取り組む上では一定の活動経費が必要であるが、協議会構成団体の活動が経費面を理由に難しいとする例もあり、助成・補助等に関する情報周知のほか、構成団体の活動に係る情報共有について、支援を望む声がある。</li> <li>●岩手宮城の両県を流下する北上川の周辺地域(内陸部)におけるゴミの不法投棄は、北上川の河口部を経た海洋ゴミの堆積にも影響する大きな問題である。近年、世界的な環境問題の一つとして認識された海洋のプラスチック汚染に関して、北上川の周辺流域全体での河川ゴミ削減に向けた取組は重要であるが、海に面していない内陸河川周辺におけるゴミ投棄と海洋におけるゴミ問題との関連性を住民等が直接的に認識することは難しく、問題意識の醸成に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域における環境保全活動の重要性に係る普及啓発、優れた取組事例の掘り起しと共有、効果的な協働連携体制の構築について、継続して取り組む。</li> <li>●胆江地区(奥州市・金ヶ崎町)内で環境保全活動の実績を有する未加入団体(土地改良区の一部や新規ボランティア団体等)については、引き続き掘り起しを行い、協議会組織の底上げを図る。</li> <li>●海洋ゴミ・マイクロプラスチック汚染を念頭に置いた河川流域での活動活性化等、社会的課題に即した流域活動の見直しについては、協議会構成団体との意見調整、連携の下、適時進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和元年度水と森を守り育てる活動知事感謝状を、流域協議会構成団体の胆江河川協同組合が贈呈を受けた。(活動実績に基づき、県南広域振興局が推薦を行ったもの)</li> </ul>	22	22
花巻	豊沢川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水源の涵養 「花巻のブナ原生林に守られる市民の会」及び地元住民が中心となり、豊沢ダム上流部のブナ原生林の保護活動や子どもたちを対象とした自然体験学習を行っているほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施策及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●親水活動や環境教育の展開 主に子どもたちを対象とした川流れ体験、水中観察及び自然観察などや、一般を対象としたラフティングやカヌー指導などの水辺体験が行われている。 また、冬季にも自然観察や雪遊びなどの親子雪上体験も行われており、今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地元住民が組織する「豊沢川活性化・清流化事業推進協議会」を中心として、豊沢川流域や豊沢ダム周辺の清掃活動など自然保護活動や親水活動等が、毎年継続的に行われている。 また、花巻市内の中小河川においても特色ある活動が各団体により精力的に行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●団体が活動するための資金の調達</li> <li>●他の流域との活動連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の流域基本計画が策定された河川流域との連携</li> </ul>		6	33

森川海流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和元年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
花巻	葛丸川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 河川敷の草刈、清掃については、地元住民が中心となって例年実施しているほか、鮭鱒増殖組合が中心となつての稚魚の放流により葛丸川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●たろし滝の計測・自然とのふれあいの促進 例年、親子で参加する「里山の学校」や、サケ、ヤマメなどの稚魚放流、釣り大会などが開催されているが、中でも、毎年冬に行われる大瀬川上流のたろし滝の氷柱測定は、大人から子どもまでが参加する地域の恒例行事であり、地域の方々と自然との触れ合いの場となっており、今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「たろし滝保存会」及び「葛丸川淡水魚愛護組合」の活動を中心に、たろし滝の計測や淡水魚の繁殖保護活動等を通して、自然環境保護の啓発を継続実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●限られた団体のみが活動を行っている。</li> <li>●活動の広がりが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動団体の把握と賢治葛丸祭への参加を促進するとともに、他流域との交流を図る。</li> </ul>	●大瀬川上流のたろし滝の氷柱測定(大瀬川たろし滝測定保存会)	4	19
	稗貫川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 河川敷の草刈、清掃については、稗貫川漁協が中心となつて、例年春と秋に実施しているほか、稚魚の放流により稗貫川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●環境学習の推進 花巻土木センターが主催する「森と湖に親しむ旬間行事」において、湖面パトロールや魚のつかみ取りなどにより次代を担う子供たちに対する啓発を行っているほか、流域の子どもたちが参加する自然観察会や水生生物調査が実施されており、今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地元の小学校による環境学習が継続的に行われている。 また、毎年7月に早池峰ダムを中心としたイベントが開催されており、次代を担う子どもたちに対する啓発を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リーダーシップをとる団体等がない。</li> <li>●地元での活動が一般にあまり知られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●早池峰ダムを中心としたイベントを行い、次代を担う子どもたちに対する啓発を継続しつつ、流域全体及び他流域との連携した取組を促進する。</li> </ul>		4	17
	猿ヶ石川流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の整備 琴畑高原における「水源の森プロジェクト」において、育林活動(植樹・苗木の成長記録)を年間4回行うことにより水源地の保全に取り組んでいるほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施業及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●水辺環境の保全 田瀬湖周辺の清掃活動後に参加者が川柳を詠むことにより環境保全を啓発するというユニークな活動が行われており、平成25年度からは「田瀬湖一斉清掃&amp;ごみ川柳大会」として下流域の花巻市民も巻き込んだ活動となっているほか、宮守川、山谷地区などで地元住民による河川清掃や草刈など環境保全活動が行われ、ホテルが舞う環境が維持されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成23年度に統合した流域ビジョンにおいて、活動指標の一部に未設定の項目があったことから、指標を中心に流域ビジョンの見直しを行ったほか、上下流の活動団体間の交流を深めるため、合同の流域部会、研修会等を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上流下流の連携体制が深まることが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●猿ヶ石川の上下流域で共通した活動を通じて交流を深めることにより、流域全体の環境保全活動について一体感と広がりバランスを図る。</li> </ul>		16	63
	わが川流域水循環計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川清掃活動 和賀川の清流を守る会が主体となつて「河川パトロール及び河川清掃」を年2回湯田ダム上下流域で開催しているほか、流域の各地で、流域協議会の構成団体を中心となつて河川敷の草刈や清掃を行っている。これらの活動により回収されるごみには廃プラスチック類も含まれ、当該ごみの海洋流出防止に寄与している。 また、特定外来種の駆除活動等も行っており、今後も継続して活動を行う。</li> <li>●自然とのふれあい 子どもたちが自然にふれあい、その大切さを学ぶ「里山体験やわんぱく自然教室」や一般市民を対象にした自然探索会などの活動が多数実施されており、今後も継続して活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」の構成団体によるホテル観察会や清掃活動など各々の取組が定着してきており、構成団体を中心となつて情報の発信や、各種取組を通じて森や川に接する場を子どもたちに提供するなど環境教育活動が継続されている。</li> <li>●和賀川の清流を守る会(事務局:北上市)や湯田ダムビジョン推進協議会と連携を図りながら流域の各種取組に関し、定期的な活動が継続されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政と住民に企業(事業者)を加えた形での各種取組が図られるような基盤整備が望まれるが、活動団体が固定化しており、新たな団体の掘り起こしが必要であるとともに、新たな視点からの事業を展開していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在行われている環境保全事業を継続しつつ、新しい活動団体を掘り起こすとともに、「環境の創造」という視点からの事業を検討していく必要がある。</li> </ul>	●水と緑を守り育てる活動知事感謝状 ・尻平川河川敷環境美化促進協議会(令和元年度)	18	62



森川海流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和元年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
一関	いわい地域流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森の整備等 いわて環境の森整備事業などを活用した森林整備を行っている。 児童生徒や森林ボランティアに対する林業作業体験の支援及び指導を行っている。 また、間伐等による森林整備の推進と、森林病虫害の駆除とその蔓延防止を行っている。</li> <li>●環境教育の推進等 各種団体による清掃活動や自然観察会による環境教育活動により、水環境への理解が深まってきている。 今後は、各種団体の連携を図るとともに、その取組や活動の幅を広げることについて支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協議会やその他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、各団体の連携意識が向上している。</li> <li>●対象地域内では水生生物調査など、環境教育の取組が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域のNPO団体等が活動を行っているものの、流域協議会の中核を担う団体又はその代表の発掘と育成が課題となっている。</li> <li>●各団体も指導者は高齢化し、団体への新規加入者が少ないことから、次世代のリーダーへの継承が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象地域で中心となって活動するNPOの育成と、これらの団体の連携を図る新しい流域基本計画に基づいた、協議会の統合を目指す。</li> </ul>		45	91
沿岸広域	釜石・大槌地域流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川の清掃活動 各活動団体(保全の会)の構成員である町内会単位での取組が定着しており、今後も活動の継続が見込まれるが、参加者が固定化している地域もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川、海岸等の清掃・草刈りの活動が定着している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動内容の固定化、各活動への参加者の高齢化及び固定化</li> <li>●会の活動を継続していくうえでの財源確保</li> <li>●保全の会間の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域ビジョンの改定に向け、各保全の会間の情報交換及び連携した活動を検討する。</li> </ul>		128	7
大船渡	大船渡市三陸町地域流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海岸等の清掃活動 漁協、各小中学校、地区公民館等の団体による海岸等の清掃活動については、震災等による事業の中断の影響を踏まえて、当面指標を設定せずに取組を推進することとしているが、再開した地域や団体等がみられ、参加人数は増加している(485人)。</li> <li>●環境教育・環境学習の推進 大船渡市立博物館による生物観察会・博物館スクール受講生徒数(52人:三陸町地域からの参加者)は指標を上回っており、子どもたちが地域の自然環境を学ぶ機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡市三陸町地域の美しい水環境をつくり守る協議会を1回開催(令和元年11月27日)</li> <li>●重点施策の平成30年度実績と令和元年度計画を報告</li> <li>●20指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは9指標であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動団体の解散等により、個人や団体による地域での活動実態が分りにくくなっていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の環境保全活動の集約に努めること。</li> <li>●環境保全に関して、地域横断的に活動する人や団体を育成すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●表彰実績 「大船渡市立越喜来小学校」は、平成14年から北里大学海洋生命科学部との連携事業「川の楽校」により、水生生物の観察・調査を継続して実施していることから、令和元年度「水と緑を守り育てる活動知事感謝状」の贈呈を受けた。</li> </ul>	17	9
	大船渡湾水環境保全計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川環境の保全 県(土木センター)が河川環境維持活動団体6団体に活動に必要な作業用品等を支給し、のべ650人が河川敷の草刈清掃、支障木伐採及びごみ拾いを行った。</li> <li>●水生生物による水質調査 水生生物による水質調査により、水環境保全について理解を深めた。総参加人数は146人で指標を下回っているものの、平成30年度と比較して増加しているため、引き続き調査の支援や参加団体の掘り起こしを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡湾水環境保全計画推進協議会を1回開催(令和元年8月27日)</li> <li>●重点施策の平成30年度取組実績及び令和元年度取組計画を報告</li> <li>●56指標中、目標値を達成又はほぼ達成したものは31指標であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡湾の水質については、震災後に一時改善がみられたが、その後、震災前の状況に近づきつつあることから、海水交流及び水質の変化について継続的に監視していくことが必要であること。</li> <li>●環境保全に関して、地域横断的に活動する人や団体が少ないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大船渡湾の水質の変化を監視し、引き続き関係機関等が連携して環境保全に取り組んでいく。</li> <li>●環境保全に関して、地域横断的に活動する人や団体を育成していく。</li> </ul>		14	30
	気仙川流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森川海をフィールドとした環境活動の推進 ・住田町の森林体験教室(12回開催)や町民総参加による河川清掃等、森川をフィールドとした環境活動が活発に行われている。 ・陸前高田市の自然観察会(5回開催)は、震災の影響により休止していたが、活動を再開している。</li> <li>●自然環境の活用推進 陸前高田市の生田地区コミュニティ推進協議会では、立教大学との林業体験等地域の特色を生かした各種体験活動を実施している。今後、炭焼きやシイタケの植菌体験等も、状況を踏まえて実施することを検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気仙川流域基本計画推進協議会を1回開催(令和元年12月5日)</li> <li>●重点施策の平成30年度実績と令和元年度計画を報告。</li> <li>●72指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは33指標であった(調査中除く)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●復興事業が継続する地域においては、環境保全に関して取り組む人や団体はまだ多くなく、その環境も十分に整っていないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●復興事業の進展により、生活環境や流域・海岸の地形的状況等が変化しているため、計画期間中も重点施策の見直し等を行いつつ、協議会の活動や方向性等を検討していく。</li> <li>●上流域においては、森林を活用した体験学習・交流活動などが盛んに行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●表彰実績 「生田地区コミュニティ推進協議会」は、森林資源を生かした地域づくりと交流活動が評価され、令和元年度「ふれあいの森林(もり)づくり」優良市町村等として、国土緑化推進機構会長賞を受賞</li> </ul>	19	49

森川海流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (令和元年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況	総合的な評価			特色ある活動等	活動団体	
			主な成果	課題	今後の方向性		団体数	事業数
宮古	宮古・下閉伊地域流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林が適正に管理され、川や海に豊かな恵みをもたらす流域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐や再造林</li> <li>・植樹活動や森林体験学習</li> </ul>                     管内には自主的かつ定期的に活動している団体が多く、市町村の広報等を通じて参加者を募るなど、活発に活動している。                 </li> <li>●美しい自然環境が保全され、人と自然が共生する流域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経営推進費事業「いわて三陸の魅力まるごと再発見！」環境学習推進事業</li> </ul>                     沿岸局管内の3団体に、三陸ジオパークの普及啓発活動等を盛り込んだ環境体験学習の実施を委託し、環境調査、地層や化石の観察等を実施(7月～9月、参加者42名)。また、宮古地域の団体に、宮古地域の取組を他地域に広める事業を委託した(7月、参加者10名)。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による基調講演や事業委託団体による事例発表を実施することで、環境活動の現状と課題について情報共有・意見交換を行った(令和2年2月11日、参加者43名)。</li> </ul>                     今後も沿岸局全体で環境学習の推進を図るため、委託事業の実施を行う予定である。                 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域基本計画においては、4つの目指すべき流域像を掲げており、達成状況を10の指標で評価している。令和元年度はこれらのうち6つの指標について目標を達成した。</li> <li>●地域経営推進費事業により次世代を担う子どもたちの環境意識が高まり、また、環境関係団体の情報共有を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●間伐面積が目標を下回っており、また、宮古・下閉伊地域でもナラ枯れが発生している。</li> <li>●震災や台風被害により住民が被災し、災害復旧工事も継続していること等により、多自然川づくりによる改修・整備延長河川清掃回数が目標を下回っている。</li> <li>●既に改善済であるが、一部事業者において生活環境項目の排水基準超過が発生した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●間伐やナラ枯れへの対処については、今後、関係者が協力して対処していく。</li> <li>●今後も環境関係団体への各種支援や事業者への指導・啓発を実施して宮古・下閉伊地域の森・川・海の保全・創造に向けた取組を継続していくほか、海洋漂着物等に係る情報共有を進める。</li> </ul>		75	132
県北広域	久慈地域流域基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川、海岸清掃                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの団体が自主的な活動を行っており、令和元年度は延べ32,652人が清掃活動を行った。</li> </ul>                     今後も各団体及び流域の住民が主体的に活動を継続していくよう、流域協議会等を通じて、活動状況の共有や支援等を行っていく。                 </li> <li>●水生生物調査、環境講演会                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校や河川保護団体等が、水生生物の観察を通じた水質調査を実施することで、環境保全活動の普及啓発に努めた。また、小中学校の教員を対象とした「水生生物指導者研修会」を開催することで、教育現場における環境教育の普及啓発を通じた環境保全活動の推進に努めた。</li> <li>・さらに、中高生を対象とした環境業務セミナーを開催し、環境分野の仕事の内容・やりがいを紹介することで、若年層が環境分野への関心を深めるための働きかけも行った。</li> </ul>                     今後も、行政主導の取組を行いつつ、各団体及び地域住民と協力し、活動を継続していく。                 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年度と比較し、自然観察会の回数が増加しており、環境保全に対する意識の向上が見られる。</li> <li>●水生生物調査の普及啓発活動、出前講座、指導者研修会、中高生を対象とした環境業務セミナーを引き続き実施し、環境教育の推進や次世代の人材育成に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●団体ごとの活動状況に差があり、団体間の意識統一が難しい他、会員の高齢化が依然として課題となっており、次世代の人材育成が引き続き求められる。</li> <li>●多くの団体が清掃活動を継続して実施しているものの、計画で定めた中間目標値(令和3年度時点で活動回数510回)の達成は困難な状況である。流域協議会においても目標値の修正が必要ではないかとの意見が寄せられており、目標値の早期見直しを検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域協議会を開催し、取組状況等を報告してもらい、団体間の情報共有を図る他、課題である清掃活動回数の目標値の見直しについても、流域協議会を通じて目標値修正の可否を検討していく。</li> <li>●水生生物指導者研修会や中高生向け環境セミナーを引き続き開催することで、環境教育の推進や次世代の人材育成のための取組を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境大臣表彰                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・長内川川の会(久慈市)(令和元年度地域環境保全功労者表彰)</li> <li>・久慈港環境美化協会(令和元年度地域環境美化功績者表彰)</li> </ul> </li> <li>●令和元年度岩手県環境活動表彰                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小平沢 由男(自然保護部門)</li> <li>・久慈バイオマスエネルギー株式会社(地球温暖化防止部門)</li> </ul> </li> </ul>	43	297
二戸	カシオペア連邦流域ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健全な森林づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわての森林づくり県民税を活用した「県民参加の森林づくり促進事業」の一環としてカシオペアフォレストスクール事業を実施し、森林学習会(14校、18回、児童延べ404名)開催に講師派遣等の支援を行った。</li> <li>・地域けん引型林業経営体の育成、林業労働者への指導・支援、林業グループの活動支援を行った。</li> </ul>                     ・今後も同様の取組を継続する。                 </li> <li>●環境学習の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内小中学校全てにおいて、校務分掌に環境教育を位置づけ、水質調査・森林学習・植林・クリーン清掃等の活動を取り入れ、学習を深めている。</li> <li>・特に、森林学習と水生生物調査の取組には環境団体と行政(県・市町村)が連携して支援している。</li> <li>・地元民間の環境団体との共催による「環境フェスティバル」を開催し、特に若年層を中心に地域住民等への情報発信と人材育成に努めた。</li> <li>・県境不法投棄事案の発生した地元として、事案を風化させないために地元高校生を対象に、不法投棄事案に係る出前授業を実施した。</li> </ul>                     ・今後も環境学習の推進に取り組んでいく。                 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の森林や河川等に関する学習が管内の全小中学校で取り組まれているなど、地域の自然環境を生かした環境学習が推進されている。</li> <li>●平成27年度から地元環境団体と協同開催している環境フェスティバルも定着してきており、近年は参加者300人程度を維持している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各団体とも環境保全活動を継続・持続して実施しているが、反面、活動内容の固定化が見受けられる。</li> <li>●環境フェスティバルも多数の参加者を得ているが、マンネリ化を防ぐため、展示、体験コーナー等の内容について検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続して実施している効果ある活動は、持続させる。</li> <li>●情報の共有化を図り、連携し協働することにより、効率的かつ効果的な事業の実施や支援に努める。</li> <li>●多様な年齢層に環境への関心を持ってもらえるような取組の推進に努める。</li> </ul>		21	37